

2014 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—文学研究科—

文学研究科長 上野英二

この種のアンケートがどれほど真を伝えるものか、疑問無しとしないが、集計結果からは、基本的には例年と同じ傾向が看取される。「総合的にこの授業を評価できる」の設問の平均値は 4.88 と昨年とほぼ同じで、非常に高い評価を受けている。「教員の話し方は明瞭であった」、「授業への教員の熱意を感じた」、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」といった設問が、4.8 以上の評価を受け、授業が円滑かつ活発に行われている様子がうかがえる。「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という設問は、前期の 4.55 から 4.63 と、改善が見られた。「授業への教員の熱意を感じた」が 4.93 であるのに対して、「予習または復習をよくした」が 4.20 に留まったのは、院生諸君の奮起を期待するべきか。